

## 2017年 実習前期レポート

2年の後期で日本語授業の予行練習のようなものを履修生5人でしてきた。その中で教材の事前準備の大変さ、外国人留学生の知っている日本語でわかりやすく授業をしていく難しさを実感した。

3年になり、前期ではウィンチェスターの留学生たちに教えることになった。自分の中には「緊張」の感情しかなかった。初めて前に立って授業をしたとき、緊張のあまり何度も噛んでいて教科書のめくり方がぎこちなかった。DVDを見る限り表情も最初は笑顔だが徐々に無表情へと変化していた。1番最初の反省では教材準備の不十分と「正解」「全員で」の口癖を直すことが挙げられた。

授業の準備に関しては、最初は「まるごと」の教科書を基にCDを流して問題を解き、教科書に記載されている会話練習などをしていくだけでオリジナルと要素が一切なかった。

授業終わりの反省会にて「“かつどう”だから教科書通りに進まなくてもいい」というアドバイスを頂いてからメンバー5人内での連絡で全体の授業の流れの話し合いを本番の3, 4日前に行うようになった。そうすることで授業内容の統一感が出るようになった。また、「留学生たちに食いついてもらいたい」と思いGoogleサイトでイラストを調べることも取り入れた。イラストをベースにオリジナルのユルいイラストを描き、色鉛筆で色塗りをしてマグネットを付け「貼りつけ式の教材」として授業に取り入れることが多かった。後半になるにつれて教材の種類が増えていき、教科書をあまり開かないようになっていた。私なりのオリジナル「ペタペタ貼り付け形式」の授業スタイルが誕生したように思える。後期からの実習はとても緊張して思うようにいかないこともあるかもしれない。しかし自分の中で表現ができる「ペタペタ貼り付け」で闘っていこう、と思う。

本番に関しては「イントネーション」「表情」「日本語の言葉のチョイス」など課題は山ほどだった。最初は「わかるかな?」「難しい表現だったかな?」「授業たのしいのかな?」とネガティブなことが何度も頭をよぎって頭が真っ白になることも多々あった。職業表をホワイトボードに貼りつけたときに「かわいい!」と反応があって内心すごくうれしかった。しかし準備したはいいいものの、そこから内容を広げることができなかった。教材をどのように活用していくことがどんなに重要なのか、をこのときに思い知らされた。全員で言ってほしいところで「みんなで」と声をかけても反応してくれないこともあった。そのとき「アイコンタクトが足りない...?」と思い、大げさなくらい全員と目を合わせてから「みんなで」と言ったら全員が声をそろえて言

ってくれた。授業をすることで手いっぱい周りを見る余裕などまったくなかった。しかし日本語の授業の回数を重ねていくごとに留学生4人を見る余裕が生まれてきた。教科書だけの授業をしてしまうと留学生はみんな下を見てしまう。前を向かせるためには、教科書内容または考えてきた問題をホワイトボードで活用するしかない。それと同時にみんなが食いつくような教材を準備したい、という考えから行きついたのが「絵をホワイトボードにペタペタ貼りつける」スタイルだった。理想の部屋をみんなに作ってもらって楽しんでもらおう、と思いさまざまな家具のイラストスタンプを準備し、画用紙を部屋に見立てて作ってもらう授業をした時だった。みんなそれぞれ個性のある部屋をデザインして楽しそうだったが大きな失敗をしてしまった。それは1人が部屋をデザインしているときに他の3人に対する活動を準備していなかったのだ。その結果おしゃべりしていて、内心「やらかした」と思った。1人1人前にも出てもらってデザインしてもらうのではなく、それぞれにプリントを準備してプリントにデザインを何分までと時間を設けて描いてもらうほうがよかったのではないかと授業が終わった後に思った。今までだったら反省会で意気消沈するだけでこれからの解決策など思いつかなかった。しかし残りあと数回で授業が終わる、というところでは前の授業よりもいいもの、そして先ほどの授業の汚点や解決策を見いだせるようになっていた。我ながら進歩したのではないかと思う。

DVDを見ると最初は自分の悪いところしか目につかず、授業のときの記憶がフラッシュバックしてまともに見ることができなかった。何回も再生することで「絵は比較的わかりやすい」「アイコンタクトは出来てきている」「指名はランダムにできている」など自分の授業スタイルの長所を見つけ出すことができた。日本語の授業はまだ始めたばかりでこれから多くの失敗をするかもしれない。とても不安な気持ちでいっぱいだが、ここまで自分が前期やり遂げた結果や留学生たちにもらった **Student teachers** 宛ての手紙を励みに挑んでいきたい。これからは自分の得意分野で留学生たちに日本語教育をしていこう、と思う。今までよりもイラストのサイズを大きくしてわかりやすいものを準備して楽しませながら日本語に触れさせる授業をしたい。